メディアコミュニケーションによる地域支援

研究内容

映像をコミュニケーションの一環ととらえ、主に映像による表現行為などの実践をもとに研究を進めている。地域連携においては、これまで震災以降の気仙沼中心部商店街の定点的記録収集とアーカイブス化、仙台市中心部商店街の復興イベントの総合プロデュースならびにアートディレクション、ＰＲプロモーションの制作およびイベントの中継、亘理町イベント中継などをおこなった。また、震災をコンテクストとしたイメージ映像、長編映画を制作した。「人」にアプローチする方法論により、その地域の魅力をアウトプットすることで、再興や再生を目指す地域に貢献する研究を継続している。

地域・産学連携の可能性

工学系の研究による技術的な連携・貢献とは異なり、ソフトウェア（コンテンツ）の提供が可能である。したがってこの研究は、産業とよりも地域との連携において親和性がある。

具体的には、長期にわたる関わりからその地域の魅力、その地域に生きる「人」にアプローチしつつ、関係者（連携先ならびにプロジェクトメンバー）と協議しながら、その地域に最も適したプロモーションを模索する。これまでの経験から、映像イベント（プロモーション映像の制作、インターネットを利用した独自番組の発信など）が提供可能であり、マスコミなどの「ニュース」とは異なる、その地域を取材しリポートすることが出来るため、連携先の地域の意向を十分に組み込むことが可能である。

これらの番組制作は、長期にわたる関わりの中から生み出されるため、連携先とはこの点において協同を求めることとなることを付記する。

このテーマに関連するSDGs開発目標

ライフデザイン学部 経営デザイン学科　表象文化論、映像（写真・動画）表現

猿渡 学 SARUWATARI Manabu

教授、文学修士

執筆論文

地域連携センター紀要『ＥＯＳ』Vol.30 No.1
山形県西川町への地域連携プロジェクト：N-PROJECT

KeyWord　地域連携、再興と再生、映像コンテンツの提供、定点的記録収集